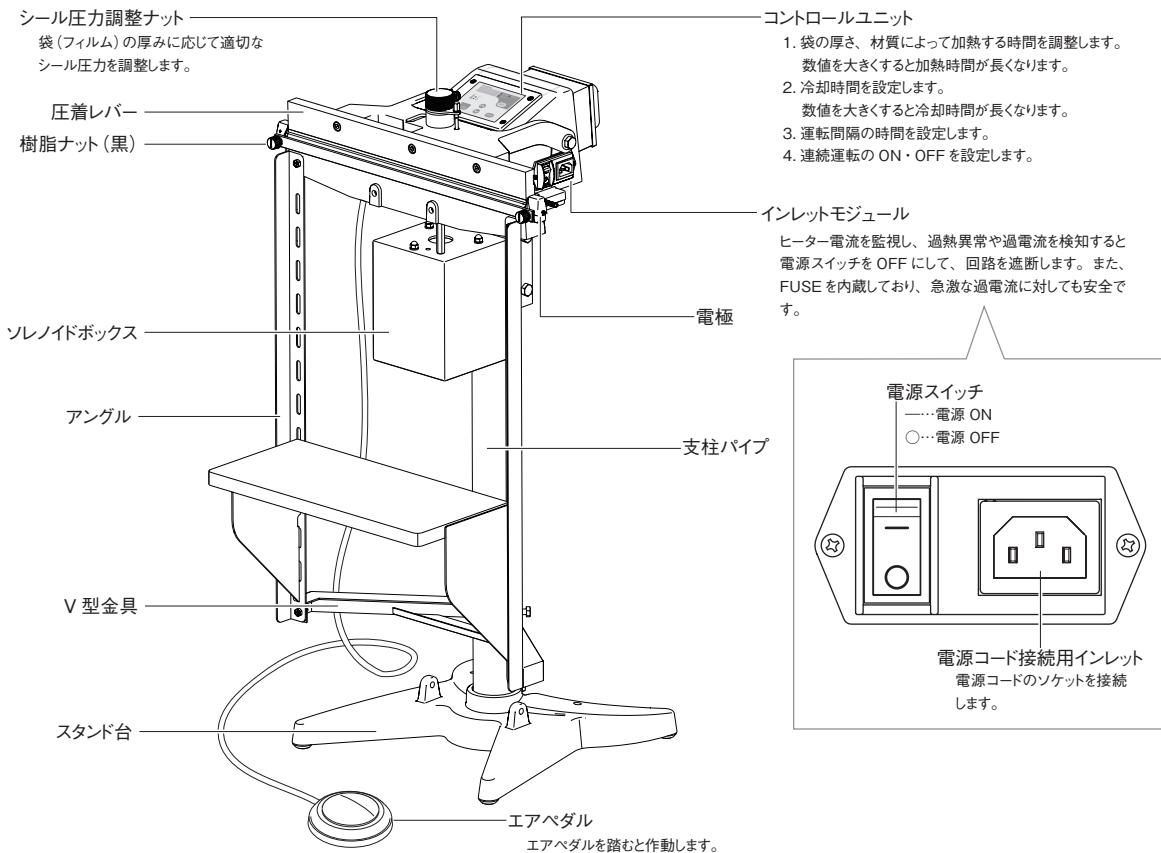
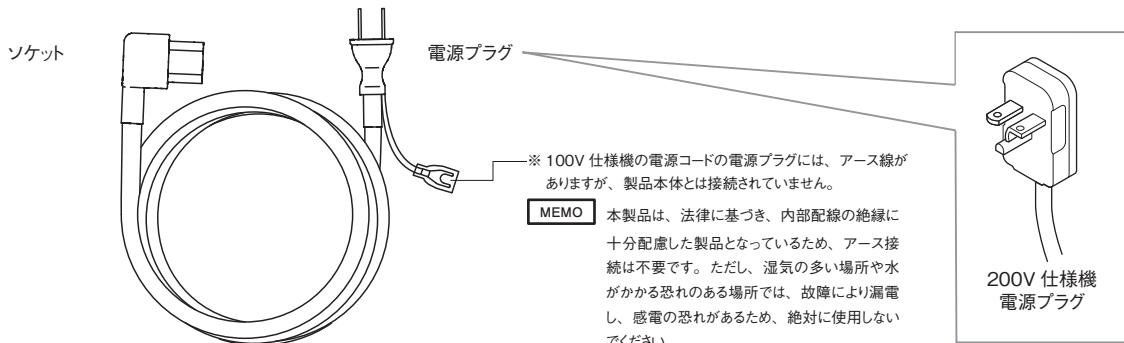


7 各部の名称とはたらき

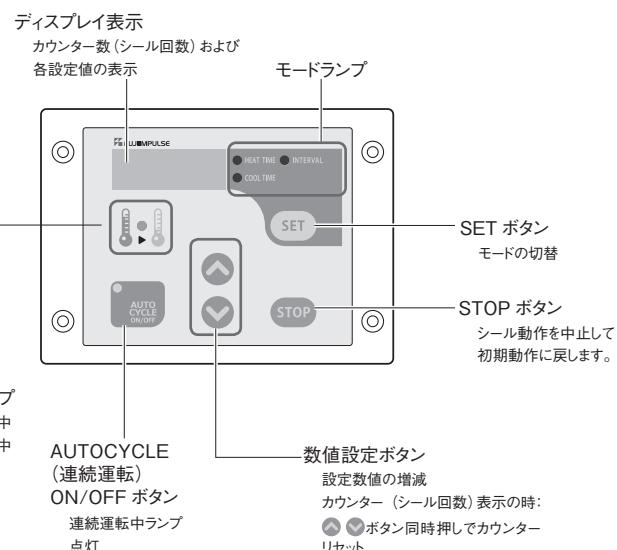


電源コード



コントロールユニット

設定値を増減する▲、▼ボタンは1回押すと数値が1ずつ増減します。また、押し続けると数値は連続的に増減します。大きく数値を変えたいときは1回ずつ押すのではなく、ボタンを押し続ける方が早く設定できます。



8 正しい使い方

製品を使用される時は以下の『正しい使い方』をよくお読み頂き、お使いください。
以下の方法以外の操作方法で使用されますと故障の原因となり、たいへん危険です。

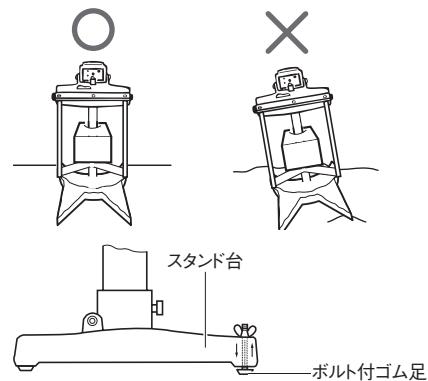
8-1 本体の設置

水平な面を持つ適切な床の上に設置してください。

△ 警告 水平でない床面に不安定な状態で設置するとシーラーが転倒する危険性があります。

スタンド台に取り付けられているボルト付ゴム足の蝶ナットを緩めるとボルト付ゴム足の高さが調整できます。

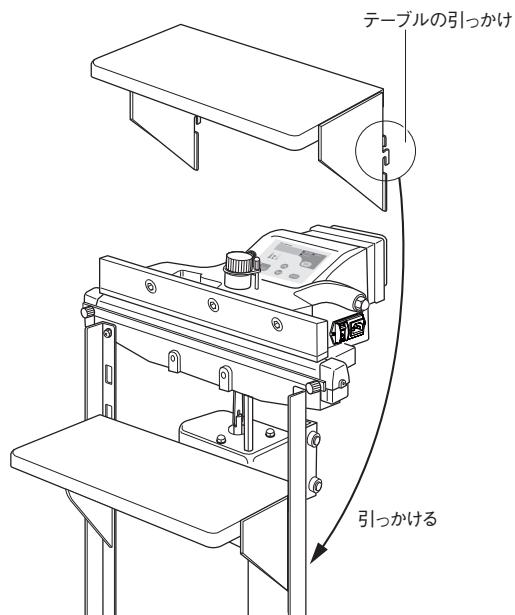
この調整により多少の床面の高さの違い(凹凸)には対応できます。



8-2 テーブルの取り付け

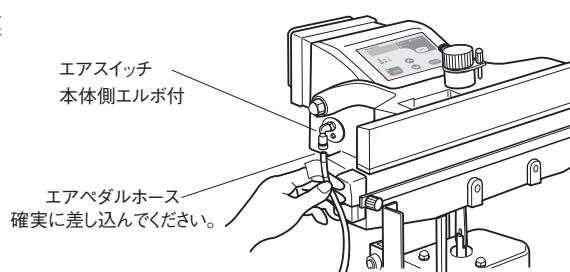
アングルの穴にテーブルの引っかけを差し込んで固定します。アングルの穴に合わせて作業しやすい高さに調整できます。

MEMO テーブルを使用されない場合はこの作業をする必要はありません。



8-3 エアホースを差し込む

エアペダルホースをエアスイッチ製品側のエルボに確実に差し込んでください。



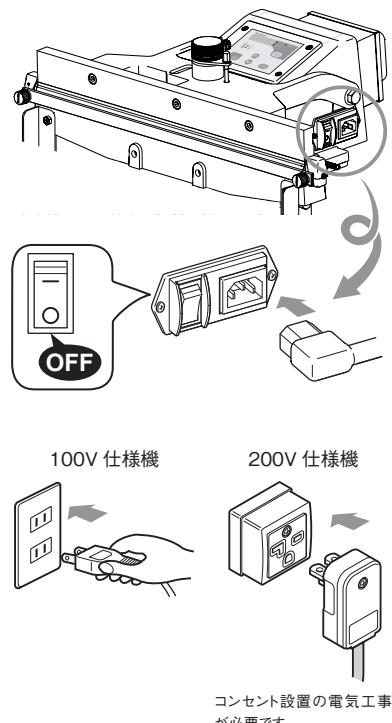
8-4 電源コードの接続

- 1 電源コードのソケットを機械右側面の電源コード接続用インレットに接続してください。
- 2 電源コードの電源プラグを「1 仕様」(→ P.5)で掲載しているお買い上げ製品の電圧・電力がとれるコンセントに確実に根元まで差し込んでください。

シール幅が 10mm の製品は 200V 仕様となり、電気工事の第 3 種接地工事資格者による電源コンセント設置の電気工事が必要です。

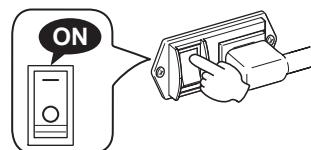
警告 電源コードは必ず附属のものを使用してください。規定の容量に合わない場合、火災などの危険があります。

注! 電源スイッチは OFF の状態で、電源コードのソケット、電源プラグを接続してください。電源スイッチが ON の状態で電源コードを接続すると、電源スイッチ内部の安全回路がまだ動作していないため、一旦 OFF になりますが、異常ではありません。



8-5 電源スイッチ ON

製品の側面(正面から見て右側面)の電源スイッチを押して ON になるとコントロールユニットのディスプレイ表示の文字が点灯します。



8-6 操作方法の選択

コントロールユニットの「AUTOCYCLE (連続運転) ON/OFF」ボタンでマニュアル操作か連続運転かの選択ができます。

正しい使い方の「8-7 コントロールユニットでシール条件を設定」でのシール条件設定の後「AUTOCYCLE (連続運転) ON/OFF」ボタンを ON または OFF にしてください。

詳細は「8-6 操作方法の選択」(→ P.14) >>
各操作のセットの仕方を参照してください。

AUTOCYCLE (連続運転)
ON/OFF ボタン

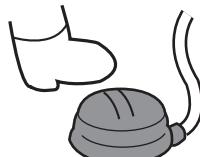


A 連続運転 OFF

(連続運転中のランプ消灯)

- 1 エアペダル操作 エアペダルを踏んだ時に動作します。

エアペダル操作

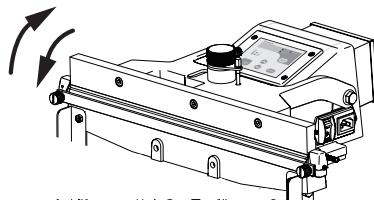


B 連続運転 ON

(連続運転中のランプ点灯)

- 2 連続運転 設定した時間の間隔で連続運転を行います。

連続運転

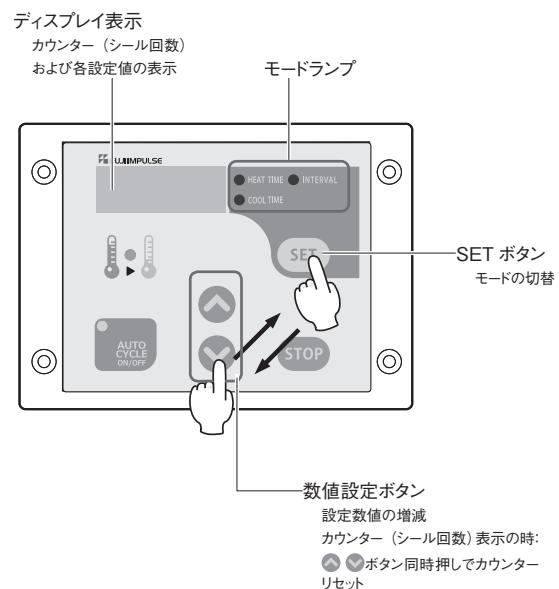


各操作のセットの仕方

操作方法	
エアペダル操作	AUTOCYCLE（連続運転）ON/OFF ボタンを OFFにして、附属品として梱包されてるエアペダルを、「8-3 エアホースを差し込む」(→ P.13) を参照してセットし、お使いください。
連続運転	運転間隔時間を設定してから AUTOCYCLE（連続運転）ON/OFF ボタンを ONにしてお使いください。

8-7 コントロールユニットでシール条件を設定

- ・コントロールユニットで加熱時間・冷却時間・運転間隔時間を設定します。
- ・袋（フィルム）の材質、厚さなどにより設定値は変わりますので、異なる袋を使用される時はその都度設定してください。
- ・SET ボタンを押すと、カウンター（シール回数）→ HEAT TIME（加熱時間）→ COOL TIME（冷却時間）→ INTERVAL（運転間隔時間）の順にモードが切り替わり切り替わったモードのランプが点灯します。
- ・どのモードのランプも点灯していない時はカウンターが表示されています。



□ 加熱時間の設定

- ・「HEAT TIME」のモードにして、▲、▼ボタンで数値を加減して設定します。
[0.1 ~ 1.6 秒]
- ・使用されるときの電圧、袋（フィルム）の材質により適切な加熱時間は異なります。
- ・シールができる最短の時間で設定してください。作業速度が上がり、部品の無駄な消耗を抑えます。

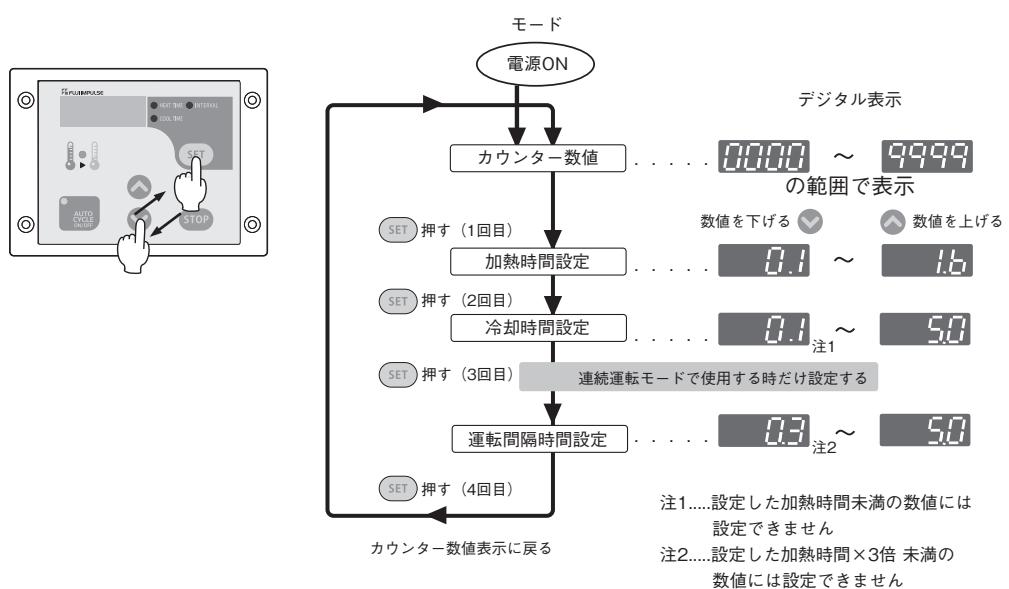
□ 冷却時間の設定

- ・「COOL TIME」のモードにして、▲、▼ボタンで数値を加減して設定します。
[加熱時間～5.0 秒]
- ・冷却時間は加熱時間の 2 倍以上必要です。
FR-450 SB シリーズでは冷却時間を確保するために加熱時間の設定値より短い時間には冷却時間を設定することはできません。
- ・加熱時間を冷却時間より長く設定した場合、冷却時間は自動的に加熱時間と同じになります。

□ 連続運転・運転間隔時間の設定

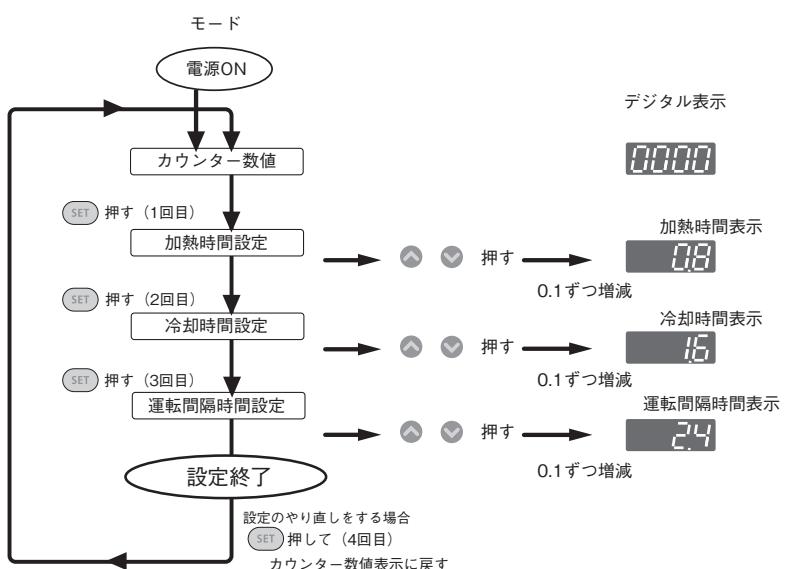
- ・「INTERVAL」のモードにして、
▲、▼ボタンで数値を加減して設定します。
[加熱時間×3～5.0秒の範囲]
- ・連続運転モードでの運転間隔時間は、加熱時間の3倍より短い時間に設定することはできません。
加熱時間を長くすると運転間隔時間を変更しなくても、運転間隔時間が加熱時間の3倍より短い場合、自動的に運転間隔時間が長くなります。

各モードの設定手順



各モードの設定手順例

設定数値例：【HEAT TIME（加熱時間）0.8秒】 【COOL TIME（冷却時間）1.6秒】
【INTERVAL（運転間隔時間）2.4秒】

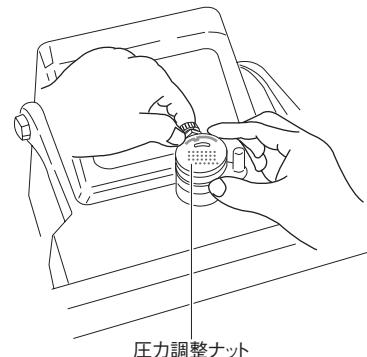


8-8 シール圧力の調整

工場出荷時に圧力調整ナットを0.1～0.2mmの厚さの袋(フィルム)に合わせた「標準」位置で調整しています。

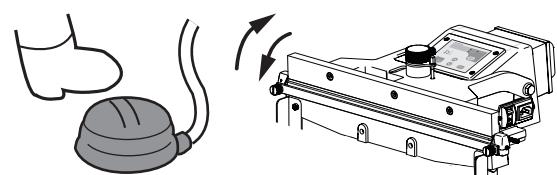
シールに必要となるシール圧力は袋の材質・厚さにより異なります。使用される袋に応じてシール圧力を調整させることができます。

△ 注意 シール圧力の調整は「9 シール圧力の調整方法」(→P.19)を参照して、必ず行ってください。袋の材質、厚みを変えられたときは再度設定してください。



8-9 試しシールを行う

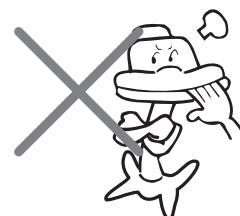
コントロールユニット設定、シール圧力調整ができましたら、コントロールユニットの「AUTOCYCLE（連続運転）ON/OFF」ボタンをOFFにしてマニュアル操作で何度かシールテストを行い、設定をより良い状態に仕上げてください。



8-10 選んだ操作方法でシールを行う

△ 注意 長時間使用されますとシール部が熱くなり火傷をする危険性があります。

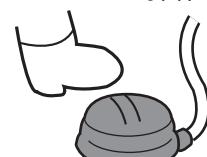
また、強力な圧力が加えられるシール部に指などが入ることは非常に危険です。異物が挟み込まれマイクロスイッチが約0.8秒以内に入らないと自動的に加圧が解除される設計をしていますが、両端部では強い力が掛かり、指が挟まつた状態でも加熱工程に入る危険性がありますので充分注意してください。



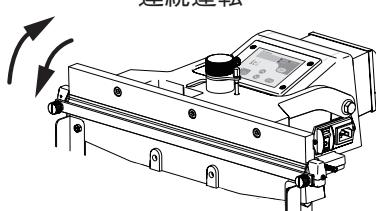
1. エアペダル操作

袋(フィルム)をシール部にセットし、エアペダルを踏むと圧着レバーが降りて、シール工程に入ります。

エアペダル操作



連続運転

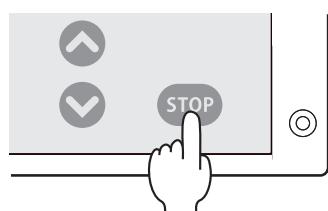


2. 連続運転

コントロールユニットで設定した時間の間隔で圧着レバーが連続して降ります。そのタイミングに合わせて袋(フィルム)をシール部にセットし、シール作業を行ってください。「AUTOCYCLE（連続運転）ON/OFF」ボタンをOFFにすると作動が停止します。

● STOP ボタン

各操作にかかわらず製品が動き始めた後で、何らかの要因で製品の動きを止めたいときは、STOP ボタンを押してください。圧着レバーが上がり初期状態に戻ります。STOP ボタンを押してもコントロールユニットで設定した数値は消去されません。



8-11 シールのできあがり

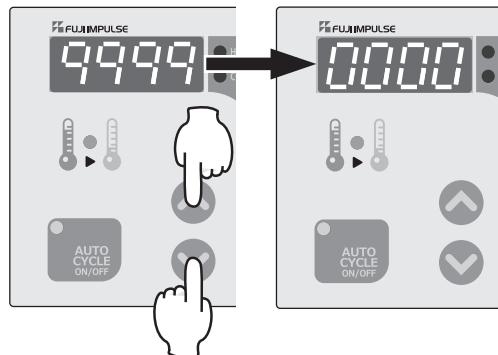
加熱・冷却終了後、圧着レバーが上がれば、シール完了です。うまくシールができていない場合は再度、加熱・冷却・加圧力の設定をやり直してください。



8-12 カウンター（シール回数）のリセット

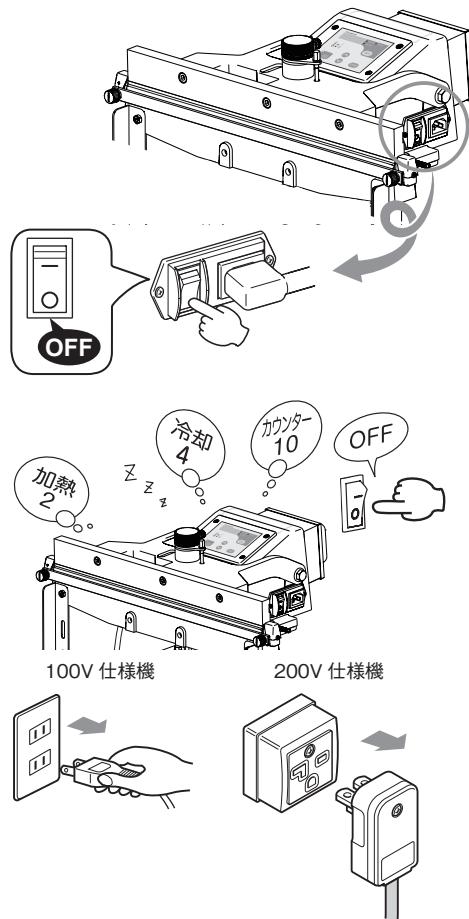
シール作業を行うとカウンターの数値が1ずつ0000～9999の範囲で増えていきます。

数値を0000に戻したい場合は、カウンターを表示しているモードでの状態で▲と▼ボタンを同時に押してください。



8-13 電源スイッチを OFF にする

作業が終了したら、必ず電源スイッチを押して OFF してください。



8-14 作業終了後の点検

作業が終了したら清掃を行い、フローガラスシートやヒーターなどの部品が傷んでいないか点検を行ってください。傷んでいるようであれば、交換を行ってください。

